



障害者の社会参加施設

小規模作業所

「夢屋」が開所

障害者と健常者が集う「夢屋」

阿蘇郡内では初めての障害者小規模作業所「夢屋」(宮本誠一代表)が四月十七日、宮地小学校向い側に開所しました。夢屋は民間による障害者の社会参加施設。パンを焼き、ケーキなども販売、コーヒーや飲み物なども提供する喫茶店です。自閉症の下原猛さん(20)の両親が、健常者と障害者のふれあいの場ができればと開店しました。

障害者の作業所をつくるのに、小学校の教諭だった宮本さん(34)も力を合わせることになり、昨年4月から自宅の改装を始めました。猛さんや支援の人たちも加わって、一階部分の床板を張り換え壁を塗るなど、ほぼ一年がかりの作業を進め、喫茶店らしく改装を仕上げました。これからの運営にも支援のボランティア二十人が協力することになっています。

猛さんの母、澄江さん(47)は「障害者と健常者ということとでなく、いろんな人がきて、お話しができればいい。そんな場にしていきたい。ぜひ町内の障害を持つ方も足を運んで欲しいですね。」と夢を広げています。

手作りパンは注文にも応じています。